

終末期医療におけるMSWの役割

後期高齢者医療における 患者・家族の心理社会的問題への相談援助

医療法人 東札幌病院
医療ソーシャルワーカー
田村里子

終末期医療におけるMSWの役割

:後期高齢者医療における患者・家族の心理社会的問題への相談援助

contents

- MSW : 医療ソーシャルワーカー
- 後期高齢者の療養生活の場と心理社会的問題
- 終末期医療における心理社会的問題
- 終末期医療における医療ソーシャルワーカーの役割
- 後期高齢者医療への提言

MSW (Medical Social Worker) とは？

= 医療ソーシャルワーカー とは

- 保健・医療の現場における**社会福祉の専門職**
基礎資格は**社会福祉士**
 - 患者・家族の心理社会的な問題に対し、
社会福祉援助技術を用いて援助する
- ※ **気持ちと暮らしを支える相談援助職**

医療ソーシャルワーカー

- 2002年厚生労働省「医療ソーシャルワーカー業務指針」より
抜粋

「……疾病を有する患者等が、地域や家庭において自立した生活を送ることが出来るよう社会福祉の立場から患者や家族の抱える心理社会的問題の解決調整を援助、社会福祉の促進を図る医療ソーシャルワーカーの役割……」

後期高齢患者の療養生活の場

急性期病院



MSW

回復期リハ病院



MSW

在宅療養



老人保健施設



MSW

ホスピス



MSW

療養病床



MSW

各種老人ホーム



MSW

各種病院における後期高齢者の相談援助

急性期病院	回復期リハ病棟	療養病床	緩和ケア病棟
ex. NTT東日本関東病院	ex. 初台リハビリテーション病院	ex. 霞ヶ関南病院療養病床	ex. 東札幌病院PCU病棟
<ul style="list-style-type: none"> ・病床数 606床 ・平均在院日数 12.2日 (精神除) (H.17) ・相談患者実数 1,401名 後期高齢者割合 46% 	<ul style="list-style-type: none"> ・病床数 173床 (MSWが全患者担当性) ・平均在院日数 90.1日 (H.17) ・相談患者実数 750名 後期高齢者割合 37% 	<ul style="list-style-type: none"> ・病床数 41床 全199床 (MSWが全患者担当性) ・平均在院日数 274.5日 (H.17) ・相談患者実数 59名 後期高齢者割合 71% 	<ul style="list-style-type: none"> ・病床数PCU28床 全243床 (MSWが全患者担当性) ・平均在院日数 42日 (H.17) ・相談患者実数 209名 後期高齢者割合 34%
<ul style="list-style-type: none"> ・極短期間で今後の治療と療養の場の選択を迫られる ・患者・家族が意思決定が困難 ・疎遠だった家族が役割を果たせない ・膨大な社会資源に困惑 ・今後の療養費用が負担 	<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリに受身の患者 ・安易に施設入所を選択しがち ・制度利用の必要が理解できない ・介護指導が家族にとって負担が大きい ・自宅退院後に共倒れになりそうな老老介護 	<ul style="list-style-type: none"> ・経済的負担 在宅での介護負担, また入院での費用負担 ・家族の罪悪感 家で看られないことへの自責の念 ・看取り 生活 保護・単身等 ・患者の権利擁護 	<ul style="list-style-type: none"> ・患者の心理的不安 社会的苦痛 喪失 ライフレビュー ・家族の予期悲嘆 方針選択へ合意形成 ・アドボカシー 患者・家族と医療者の関係形成橋渡し ・看取り, 葬儀, お墓, 財産

終末期後期高齢者の心理社会的問題

- 喪失への嘆き 老いと死への不安
「失われた」また「失っていく」ことへの怒りや悲嘆
変化と折り合う事の困難さ
 - ソーシャルサポートの脆弱さ
家族も高齢で介護力が弱体, 血縁や地縁が希薄
増加している単身高齢者は孤立し特に支援協力体制が弱体
 - 認知症等による意思決定困難
成年後見等の活用, また活用不能な場合の検討合議,
医療の方向選択(栄養・補液・延命), 療養の場の選択など
複数の意見が異なる家族との合意形成の必要
 - 家族自身も支援が必要
予期悲嘆 介護負担 看取り等
- * 今まで生きてきた「気持ちと暮らし」の問題が凝縮し顕在化する

終末期医療

End of life care

疾病の種類を問わず、近い将来に死が近いことが見込まれる患者への全人的医療

II

- QOL尊重の医療を多職種によるチームで行う
- 最後まで人としての尊厳を大切に
- 苦痛なく、自然ないのちの力を損なうことなく
- 家族を支え、人生の総まとめを支援する

II.

後期高齢者医療

ホスピス・緩和ケアの基本的な考え方

ホスピス・緩和ケアは、治癒不可能な疾患の終末期にある患者および家族のクオリティオブライフ(QOL)の向上のために、さまざまな専門家が協力して作ったチームによって行われるケアを意味する。そのケアは、患者と家族が可能な限り人間らしく快適な生活を送れるように提供される。ケアの要件は、以下の5項目である。

1. 人が生きることを尊重し、誰にも例外なく訪れる「死への過程」に敬意をはらう。
2. 死を早めることも死を遅らせることもしない。
3. 痛みやその他の不快な身体症状を緩和する。
4. 精神的・社会的な援助を行い、患者に死が訪れるまで、生きていることに意味を見出せるようなケア(霊的ケア)を行う。
5. 家族が困難を抱えて、それに対処しようとするとき、患者の療養中から死別したあとまで家族を支える

医療法人 東札幌病院

- ・S.58年 内科150床でホスピスケアを指向し開院 混在型ホスピス
- ・S.63年 緩和ケア病棟および外科開設
- ・H.5年 緩和ケア病棟承認28床(日本で10番目)

■ 243病床:内科4病棟(PCU128床)・外科1病棟

全病床のがん患者割合 71%

年間死亡退院患者数 462名 (17年度)

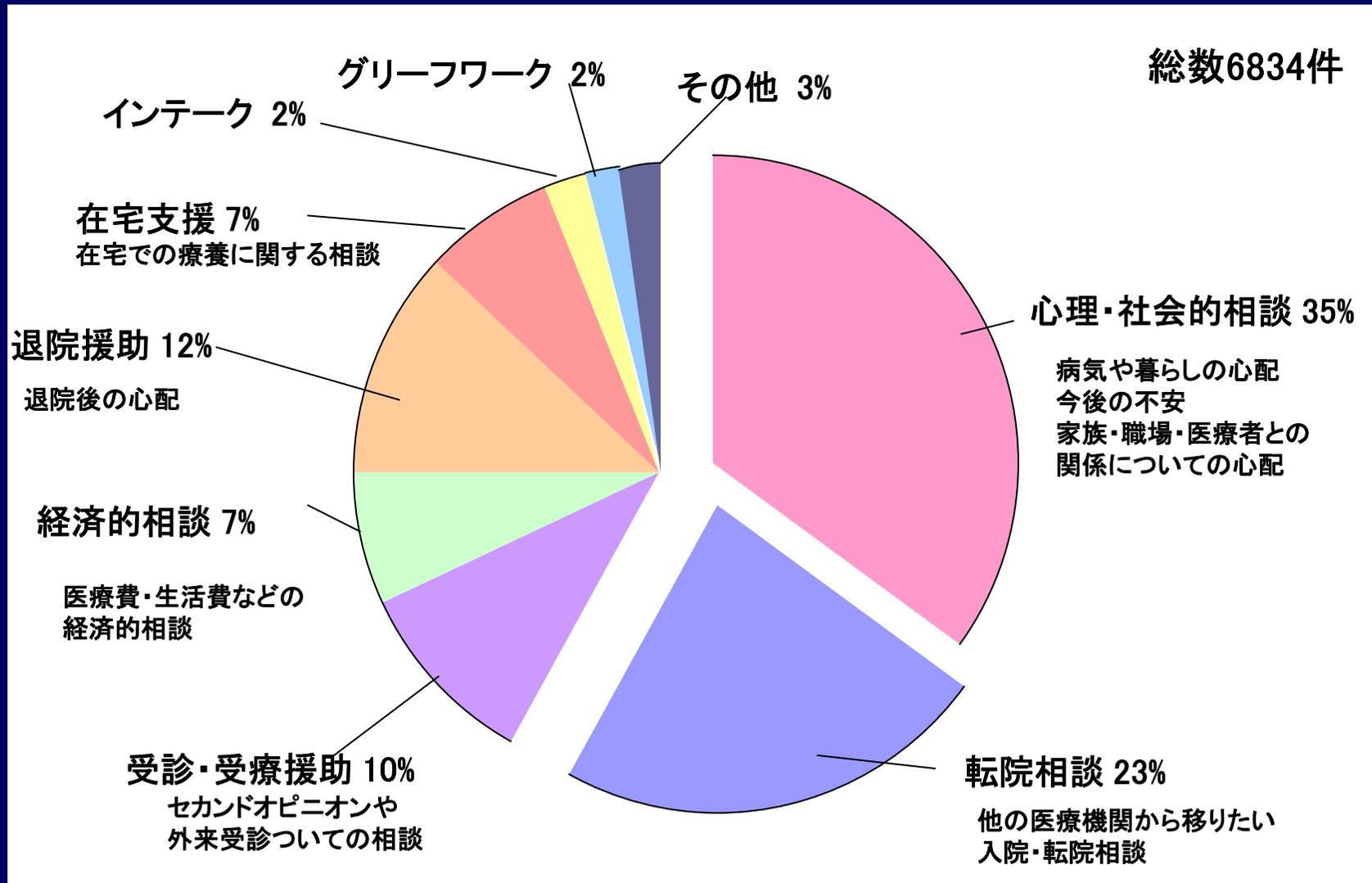


特徴

- がん患者(終末期患者)の割合が高く、看取りも多い
- 院内すべての病棟に終末期患者が多く入院している
- 病院全体で、他職種チームによるホスピスケアを実践している

平成17年度 相談援助 分類内訳

東札幌病院MSW課 H17年度年報



終末期医療でソーシャルワーカーは どんな援助をしているか

☆終末期がん患者へのソーシャルワーク研究より

「緩和ケアプロセスに応じたがん患者へのソーシャルワーク」

東札幌病院MSW課 2005

- ・H16年1月から17年5月死亡退院した患者で、東札幌病院に緩和ケアを目的として入院し比較的長期に関われた45名を無作為に抽出
- ・45名を、死亡時から遡り、4期Primary(4ヶ月以上)、Early(2～3ヶ月)、Late(1ヶ月以内)、Imminently(1～2週間以内)の時期にそってケースレビュー
- ・どの時期に、どんな心理社会的ニーズ(暮らしと気持ちの相談)があり、どんなソーシャルワーク援助を行ったか、を質的に分析

気持ちと過ごし方に関する相談

- 関係形成サポート 患者－家族間、患者・家族－医療者間
患者・家族－社会資源間、家族同士間など
様々な関係形成に関する橋渡しや、葛藤介入
- 自己実現 自伝執筆、展覧会等
- 感情表出の保障 介護負担感の爆発、前医への怒り
- ギアチェンジ 根治的治療→緩和的治療、病院→在宅
気持ちのギアチェンジ
- ライフレビュー 夫婦の歴史、生き抜いてきた私の人生
- 社会貢献 寄付、臓器提供、献体等
- スピリチュアル 存在の意味、生きている意味、病気になった意味
- 病気から離れるひと時 バースデーパーティー、音楽鑑賞
懐かしい映画、押し花、孫の結婚

退院・在宅医療に関する相談

- 療養スタイルの明確化 転院相談、在宅療養か施設内療養か
- 在宅支援 制度の案内、訪問看護等の社会資源との連携
家族調整、介護用品の案内・調整等

臨死と死別後についての相談

- 未完の仕事への援助 遺言や財産分与などに関する相談
- 看取り相談 葬儀、お墓、悲嘆、セデーション等に関する相談
- 死別後の生活相談 遺族の生活設計について

療養に関する相談

- 受診受療援助 入院調整、受診相談、セカンドオピニオン
病状理解・情報納得する病状説明の保障
選択可能な緩和策のサポートの提示

経済や生活に関する相談

- 制度活用 介護保険制度、支援費制度、身体障害者手帳
特定疾患、障害年金、高額療養費制度などの
制度活用
- 経済的相談 生計維持困難による生活保護の申請
医療費の支払い困難、生命保険、社会保険
任意継続、傷病手当、住宅ローン、雇用保険等

事例一1 終末期後期高齢者への心理的援助

90歳代男性 前立腺がん, 骨転移

軽度認知症ある妻との2人暮らし

患者が認知症の妻を老老介護

認知症の妻の今後の行き先が不安

自分の衰弱への怒り・抑うつ感情・不安

嫁いだ娘の負担となることが受け入れられない

MSW援助

- 家族と本人の気持ちの橋渡し
- 支持的な面接による心理的支援: ライフレビュー
- 現状の受容 現実吟味のため時間をかけ丁寧な情報共有を調整
- 本人の希望する「尊厳死」の実現のため医療者へのアドボカシー
- 妻の今後の生活の場について情報提供し吟味と選択を支える

事例ー2 認知症の終末期後期高齢者の医療処置選択への援助

80歳代女性 卵巣癌 認知症

栄養補給の問題 補液, 胃瘻増設 等
患者本人の意思決定能力が低下した状況における方向付け
どうすることが妥当か, 家族内の意見の不一致

MSW援助

■ 家族間の合意形成

医師の病状説明の機会を調整し同席, 各々の家族の考えを
丁寧に聴き、介入し十分な話し合いと合意形成を支える

■ 患者本人の(認知症の発症以前に示していた)価値や選好を 理解している家族が, 本人の今までの生き方に基づく医療や 方向性を, 選択していく事を支える

事例一3 支援体制脆弱な終末期後期高齢者への 未完の仕事：人生のやり残しへの援助

事例：70代後半 男性 中咽頭癌
単身 白菊会(献体)会員

交流が20年以上なかった息子に面会し和解できたら..
せめて残った財産を渡したい

MSW援助

- 医療方針と看取りへの本人の意向確認と意思決定
セデーションについて意向を医療者へアドボカシー
- 家族機能の代行 様々な社会生活上の手続き支援
- 葬儀・埋葬に関する意向を確認し 永代供養とお墓を調整
- 財産分与 息子を探索, 譲与希望の意向確認し譲渡

事例一4 社会資源活用に困難感が強い終末期後期高齢者へ シームレスなサポートシステム構築と在宅死への援助

80歳代 男性 肺がん 70代後半の妻との二人暮らし

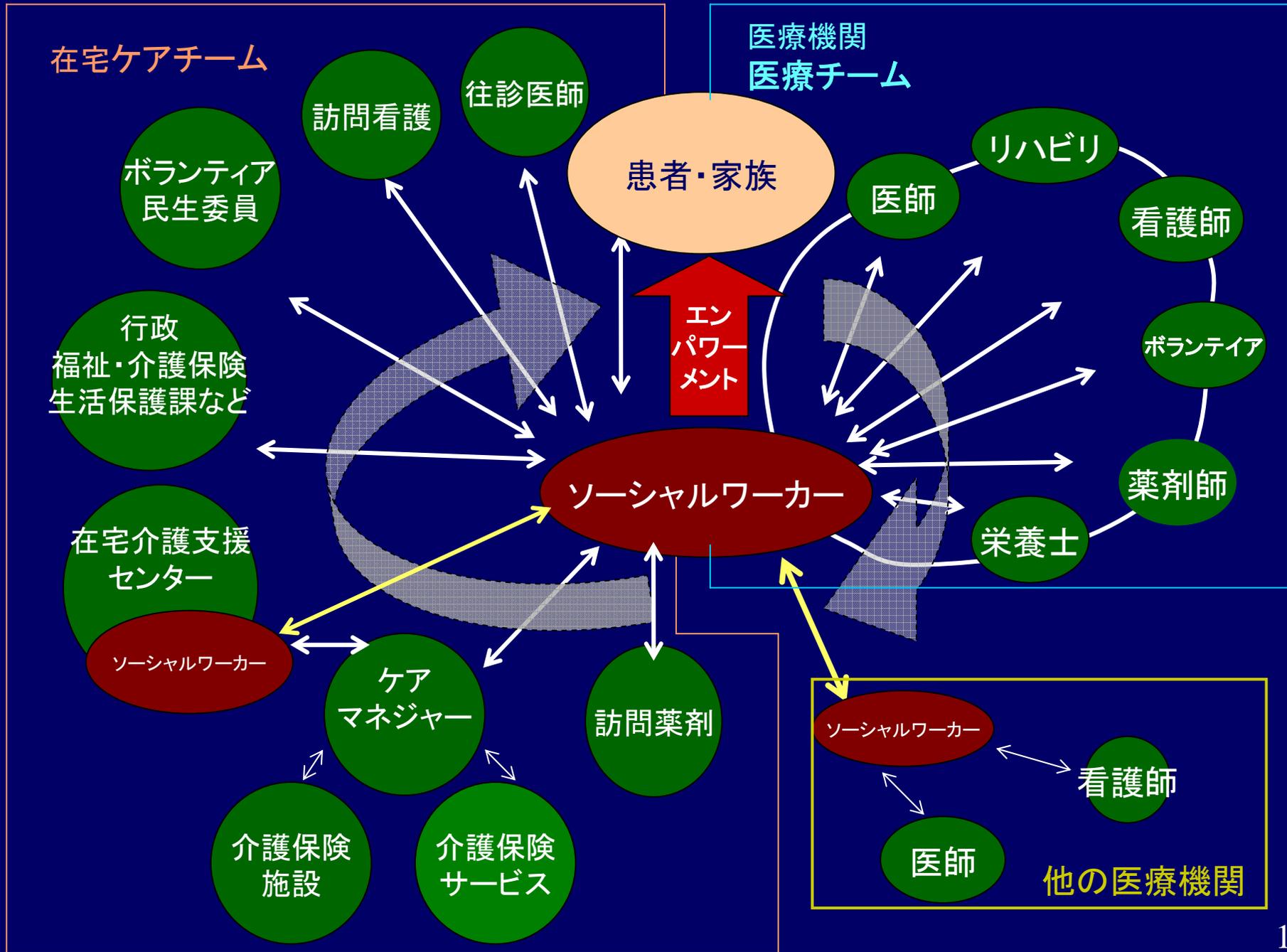
患者 「家で過ごしたい」

家族 「本人の希望を叶えたいがどうしたらいいか、自分では出来ない」
高齢で医療・福祉制度サービス活用の複雑さに困惑、困難感

MSW援助

- 本人と家族が適切な資源活用により連続したサポートシステムをつくることを支える
在宅療養の準備：介護保険の申請 訪問看護師，在宅往診医，訪問薬剤等のサポートシステムづくり，介護用ベット，エアーマット，酸素濃縮機導入
- 急変時の入院対応も調整しつつ，家族の不安を電話等で聴きネットワークと共に在宅死を支えた

後期高齢患者が「どこでも安心して療養できる」シームレスな連携体制



事例一5 後期高齢者患者の家族へのレスパイトの援助

女性 70歳後半 肺がん

訪問看護, 訪問介護活用し, 独居で在宅療養中
他県在住の娘が遠距離介護

家族の介護疲労, 細かな対応ニーズの患者との気持の
行き違いに心労 気持を聴いて欲しい

MSW援助

- 在宅療養の継続のために, 家族のレスパイト(介護疲労緩和)の
目的で患者の短期入院を調整
- 定期的に面接し家族の思いを聴くことで心理的にサポート,
ストレス下で減退しがちな介護意欲を支える

終末期医療における MSWの役割

患者と家族の気持ちと暮らしを支え
心理社会的問題への
社会福祉的視点からの相談援助



心理的サポート・家族への支援
社会的問題への調整援助・人生の総まとめの援助



尊厳 ・ QOL ・ Well Being

後期高齢者医療への提言

一 後期高齢者が望む場所で

最期まで尊厳ある暮らしを可能とするために一

- 後期高齢者の生活の歴史をふまえ心理社会的問題に対する相談援助が不可決
→専従MSWを必置とし心理社会的問題への相談援助の機会を保障
- 各種の介護保健施設や在宅での看取りへ支援体制の整備
医療と福祉の有機的なネットワークづくり
→MSWのネットワーク機能の活用
- End of life care: 終末期医療体制の拡充
家族のレスパイト支援の必要性
ターシャリーPCUとホスピスの棲み分け